

交渉速報(要旨) 申4号「冬期の取り組みに対する申し入れ」④

1 2. 越後川口駅に除雪要員を常時確保すること。

組→停目を移設しフランジヤを下げる対策だが、抱えた時にすぐ動ける体制が必要ではないか
会→対策が一定程度効果を発揮すると見ている。しっかり検証する。

1 3. 寺泊駅下り1番線着発対策として越後線156Mは冬期間E129系4両で運用すること。

組→安全上の問題である。除雪は本線が優先ではないのか。
会→締め切り扱い自体取り扱いに問題はない。下1番は両方向発着ができるのでという理由もあるのかも知れない。
組→問題無いというがリスクはある。129系4両運用が無理なら締め切り要員を付けるなど考えて頂きたい。

1 4. 駅における体制見直しについて(2021年9月提案)を踏まえた吉田駅の除雪体制について明らかにすること。

会→吉田駅長がいなくなるだけで、ホーム除雪は巡回、それでもお客さまの動線確保が必要な場合は駅社員と燕三条から応援をもらう。
組→入信が低くこまめな除雪が必要である
会→昨冬と変わらない対応ができる。

1 5. E129系の制輪子凍結に対する車両構造上の課題解決策を明らかにすること。

組→回答が完全にお手上げと見えるがどうか
会→ハード対策は万策尽きた。今後新たなものが出て来ればその限りではないが。
組→車両構造上問題ないという回答だが、凍結確認や防風ネット、留置箇所の変更、熱線パネルなど組合も提言してきたし、会社も試行錯誤してきた。工夫の余地は残しておくべきではないか
会→これで終わりというつもりはない

1 6. E129系編成に改良された連結器カバーを施工すること。

会→試行であり効果が見込めない上、物が高額なため終了した。
組→扱う側からすれば非常に評判が良かった。物があるなら使うべきだ。
会→今冬は使わないことで決定したが、勉強はしていく。

1 7. 検修社員による始発列車凍結対応の基準を明らかにすること。

会→車掌の凍結確認と同様、石打が湯沢気温でマイナス6°、他はマイナス3°である。基本は職場から出勤で2名以上の体制である。